

道徳科学習指導案（1年1組）

令和7年12月3日（水）13：30～14：15（1年1組教室）

【授業参観の視点】

人権教育の視点に関わる能力・態度を育てるために、児童の活躍の可視化の手立て（指導上の留意点◎）は、有効だったか。

1 主題名 すききらいにとらわれないで 教材名 「やさいむらのこどもたち」

2 学びの連続性

（1）学習指導要領上の位置

【主】C 公正、公平、社会正義 【関】B友情、信頼

（2）連携型小中一貫校での指導の重点

自分とは異なる考えから学んだり、対立する見方・考え方を伝え合ったりして、考えを深めることができる。

○教材を通して、道徳的価値について自分の考えをもつことができる。

○中心発問についてペアで意見交流することを通して、多面的・多角的に考えることができる。

（3）これまで、ここでは、このあとは

ア これまでの学び

「みんなでたのしく」では、友達と仲良く遊ぶよさやその方法を話し合い、仲良く遊ぶことの大切さについて考えてきた。また、全員で話し合っただけで決めた学級目標「げんきでやさしく」に向けて、毎日の休み時間にみんなで仲良く遊ぶことを意識して声をかける児童もいた。

イ ここでの学び

教材「やさいむらのこどもたち」は、同じ「やさい」という仲間でありながら、その外見にとらわれて仲良くできないでいたが、きゅうりの発言をきっかけに、「やさいむらのこどもたち」は自分たちの偏った考えに気付いていく話である。「やさいむらのこどもたち」の様子を基に、自分の好き嫌いにとらわれずに人と接することについて話し合うことで、互いのことを理解する大切さや、一緒に活動することの楽しさに気付くとともに、これまでの行動のよさを実感しながら今後の生活にもつなげていけると考える。

ウ この後の学び

学級目標『「げんきでやさしく」～みんなであそぶ～』を主題とした学級会で、友達とのよりよい関係づくりを目指すルールや目標を話し合い、自分の好き嫌いにとらわれずに人と接することのよさを自分たちの言葉で再構成する。あわせて、日常の遊びや係活動、学級活動などの様々な場面で、学びを具体的な行動につなげられるように支援する。

（4）本主題に関わる児童の実態

(削除)

3 評価の視点

- ・「ごめんね」等のなすのセリフを考えた理由について友達の意見を認め、参考にしながら、多面的・多角的に考えることができたか。（発言）
- ・日常生活での友達との関係について、分け隔てなく誰とでも仲良く接することのよさに気づき、自分の考えを表現できたか。（発言・ワークシート）

4 人権教育とのかかわり

1年生という時期の児童は、自己中心的であり、主張も強く、相手のことを考えられない場面も多い。未熟な関わりの中で、外見や印象から自分の好き嫌いで人を判断してしまうことによるいじめや差別の問題はどの学校で、どの子にも起こりうる問題である。

本学級の児童は、互いのことを大切にしようとする関係を築きつつある。今後はこのような関係をさらに深めるために、そのよさを児童自身が自覚した上で行動することが必要である。

そこで、本授業では、自分たちの行動のよさに気付けるように、「やさいむらのこどもたち」の行動の理由を考えたり、自分たちの行動のよさを可視化したりする機会を設ける。

5 本時の学習

(1) ねらい

自分の好き嫌いにとらわれずに人と接することについて話し合うことを通して、外見や好き嫌いといった印象だけで人を判断することの不公平さやそのような態度で相手が傷つくことに気づき、公正に誰とでも思いやりをもって接しようとする態度を養う。

(2) 人権教育の視点

知 性：見た目や育ちの違いなどによって人を差別したり排除したりする不合理さや、自分の好き嫌いにとらわれずに人と接することのよさに気付く。

(3) 中心のつなぎ教材

教材名	児童(自分たち)が仲良く遊んでいる写真
目的	「自分たちのできているよさ」を可視化することで、身近なものとして考えることができるようにする。
つなぎ方	導入の場面で写真を提示し、日常生活と教材の内容をつなぐ。

(4) 展開

学習活動と予想される児童の姿 ○基本発問 ◎中心発問 □補助発問	時間	指導上の留意点 ◎児童の活躍の可視化
<p>1 自分の好き嫌いにとらわれずに人と接することについて考える見通しをもつ。</p> <p>○なぜみんなは仲良く遊べているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やさしいから。 ・学級目標で決めたから。 ・誰も嫌なことを言わないから。 ・一度もけんかしたことないよ。 ・おにごっこをしているときに一緒に逃げてくれたよ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>めあて なかよくあそぶためにたいせつなことはなんだろう。</p> </div>	5	<p>◎【共感的人間関係】【安全安心な風土】互いの考えを真摯に受け止められるように、机を外し椅子のみを前方に横一列に配置する。</p> <p>◎【自己存在感】自分の考えが生かされたことを自覚し、積極的に授業に取り組めるように、考えを伝えた児童のネームプレートを黒板に掲示する。</p> <p>○【これまで】【中心のつなぎ教材】自らの取組の自信を基に「やさいむらのこどもたち」の葛藤を考えられるように、自分たちが普段できている公正な関わり(仲良く遊ぶ姿)の写真を提示し、その理由を問いかける。</p> <p>○自分の好き嫌いにとらわれずに人と接することについて考えるという見通しを明確にできるように、子どもの言葉でめあてをつくる。</p>
<p>2 「やさいむらのこどもたち」の範読を聞き、自分の好き嫌いにとらわれずに人と接することに関わる登場人物の思いについて話し合う。</p> <p>◎なすはなんとやったのでしょうか。それはどうしてでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごめんね。 ・一緒に遊ぼう。 	25	<p>○【安全安心な風土】友達の考えを聞いて自分の考えを深められるように、よく考えながら聞くように促す。</p> <p>○「やさいむらのこどもたち」の状況を理解できるように、登場人物の様子を問いかけ、板書する。</p> <p>○「やさいむらのこどもたち」が「みんなで楽しく遊びたい」という共通の願いをもっていることに気付けるように、土の中で育った子と、土の上で</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・仲間はずれにしたから。 ・嫌だなあと言ったから。 <p>□きゅうりの言った「ちがいより、もっとだいじなこと」とはどんなことだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで楽しく遊びたい気持ち。 ・仲間外れにしない。 ・友達を嫌な気持ちにさせない。 ・みんなで遊ぶと本当に楽しいよね。 		<p>育った子の両者の気持ちを考えるよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【安全安心な風土】登場人物の関係や心情を基になすのセリフの理由を考えられるように、「やさいむらの子どもたち」の様子についてペープサートを用いて演じる機会を設ける。 ○なすが自分の行為を反省した背景にある、外見を嫌悪し拒絶した本質的な理由を多面的に・多角的に考えられるように、ペープサートを用いて演じた後にペアで交流する機会を設ける。
<p>3 本時のめあてについてもう一度考える。</p> <p>○なかよくあそぶために たいせつなことはなんだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちがいで仲間はずれにしない。 ・みんなが入れるように声をかける。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ○分け隔てなくみんなで仲良くするよさについて改めて考えられるように、導入で提示した写真を見ながら自分たちの関わりを振り返るよう促す。 ○【共感的人間関係】みんなで仲良くするよさを確かにできるように、めあてについてペアで意見を伝え合い、その後全体で共有する機会を設ける。
<p>4 自分の好き嫌いにとらわれずに人と接することについて、これから大切にしたいことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで通り、みんなで仲良く遊ぶためにやさしくしたい。 ・仲間外れにしないで、みんなで遊びたい。 ・友達の話をしっかり聞いて、友達の意見を大切にしたい。 ・友達となかよくできていることがとてもいいことだと分かったから、もっと仲良く遊びたい。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ○【自己決定】自分の好き嫌いにとらわれずに人と接することに対する自分の考えを明確にできるように、ワークシートに考えを記入するよう促す。 ○【安全安心な風土】様々な場面で見た目や好き嫌いにとらわれない大切さに気付けるように、全ての意見を肯定的に受け止める姿を見せる。 ○【このあとは】今後の生活において本時の学びを生かす意欲を高められるように、しっかりと考えられたことを称賛する。
<p>ふりかえり だれとでもあそびたい。たくさんのもだちとあそぶとたのしい。</p>		

【板書計画】

